

日本首長連合

Mayoral Alliance for LOCAL JAPAN

団体概要

令和8年1月

1. 日本首長連合とは

名称

地方創生を通じて、日本の未来社会を創造する首長連合

通称：日本首長連合（にっぽんしゅちょうれんごう）

名称に込めた想い

- ・「地方創生」を掲げることで、国省庁や企業等に対して地方創生の団体であることが伝わりやすく、国事業や全国的な機運との連携を図りやすくなることが期待できる。
- ・各地域が活性化していくことが、即ち日本全体の発展にも繋がることであり、そうして、日本全体の発展を地域視点で手がけていく団体であることを掲げる。
- ・地域ならではの魅力を磨き上げ、産官学民等と「共創」することで、日本の未来社会を創造していく。
- ・事業領域としては、市政ということで広義であるため、母体名も広義にすることで様々な活動を包含できる。

1. 日本首長連合とは

ビジョン

越境して共創することで地方創生を牽引し、日本全体の発展を誘う

日本の基礎自治体の連合体として、
各地域が国や企業、地域と連携、共創することで、
地方創生を推進し、日本全体の発展を担う。
多様化する地域課題や共通する地球規模の課題へ取り組み、
全国各地にある日本の魅力や地域文化を国内外へ発信し、
地域ならではの未来社会の共創を支援する。



1. 日本首長連合とは

ミッション

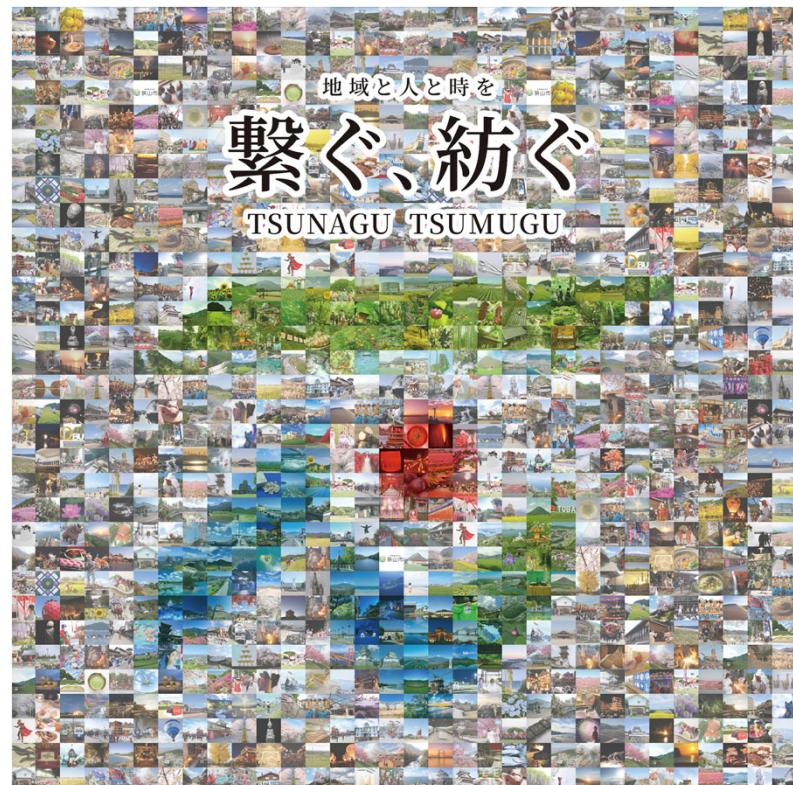
地域と人と時を 繋ぐ 紡ぐ

地域にこそ、日本の「宝」が数知れずある。

地域の「ホンモノ/アイデンティティ」こそが、日本の宝である。

日本各地にある「宝」を多種多様な「共創」により磨き上げ、
各地域の活性化に繋がる共創支援や機会提供を図る。

そして、各地域が輝くことで、日本全体の発展に繋げていく。



2. 活動方針

活動方針

2015年首長連合発足以来、連合としての活動を通じ国や民間企業との連携を進め様々な繋がりがうまれた。

2025年7月のLOCAL JAPAN展では共通の想いを持つ地域同士が広域で「共創」しあうことで、新たな価値創造の機会となったように、今後も「共創」という考え方や取組を万博のレガシーとして引き継ぎ、万博のテーマとして掲げられた「いのち輝く未来社会」の実現に向け、地域資源の磨き上げや魅力発信、課題解決の糸口となる企画も盛り込んでいく。

国は主要政策として地方創生を推進しており、「強く」、「豊か」な地方の実現に向けて、地域における経済活動や人々の生活が、都道府県域、市町村域に限定されるものではなく、多様な主体が広域的に連携しながら地方創生に取り組むことを掲げている。

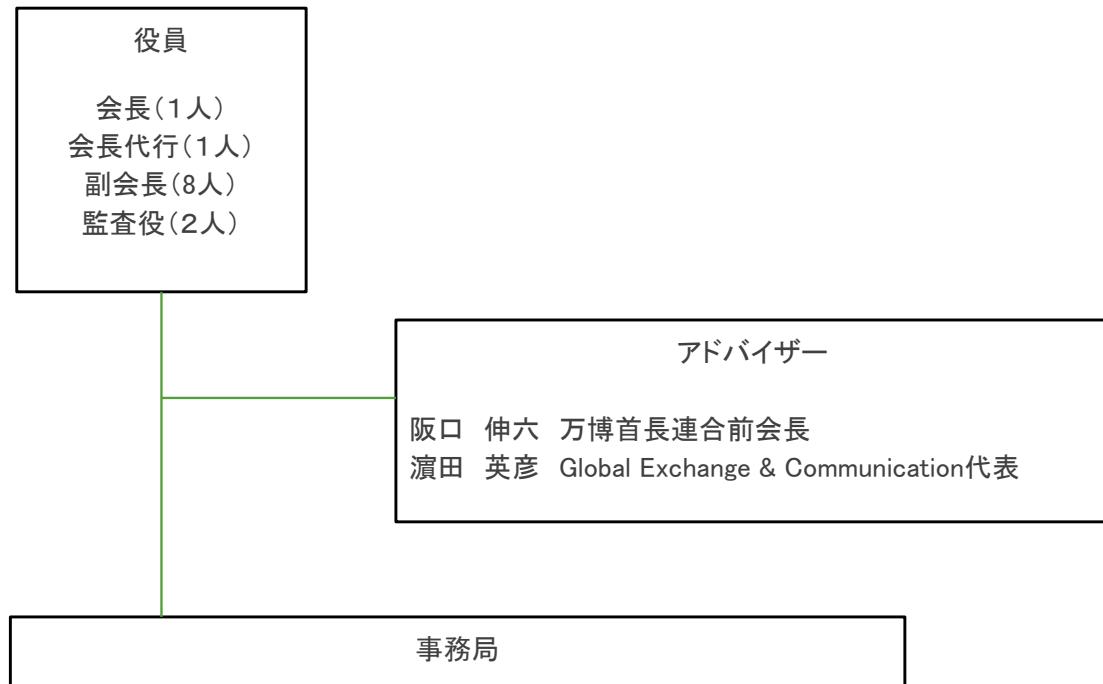
日本首長連合では政府が掲げる地方創生の基本方針を柱とし、国が推進する政策や事業と会員自治体とのハブ機能(情報提供や地域への連携)を担うことを今後も活動の基本とする。

具体的な取組を戦略的かつ効果的に実践していくとともに、各自治体の叡智を結集し共感の輪が広がり、全国の地域や事業者等が万博レガシー「共創」により地域の魅力を国内外に発信し、引き続き日本の地域の未来社会を創造していく。

3. 運営体制

運営体制(2026年1月8日現在)

参加自治体:664団体(うち、正会員67団体)

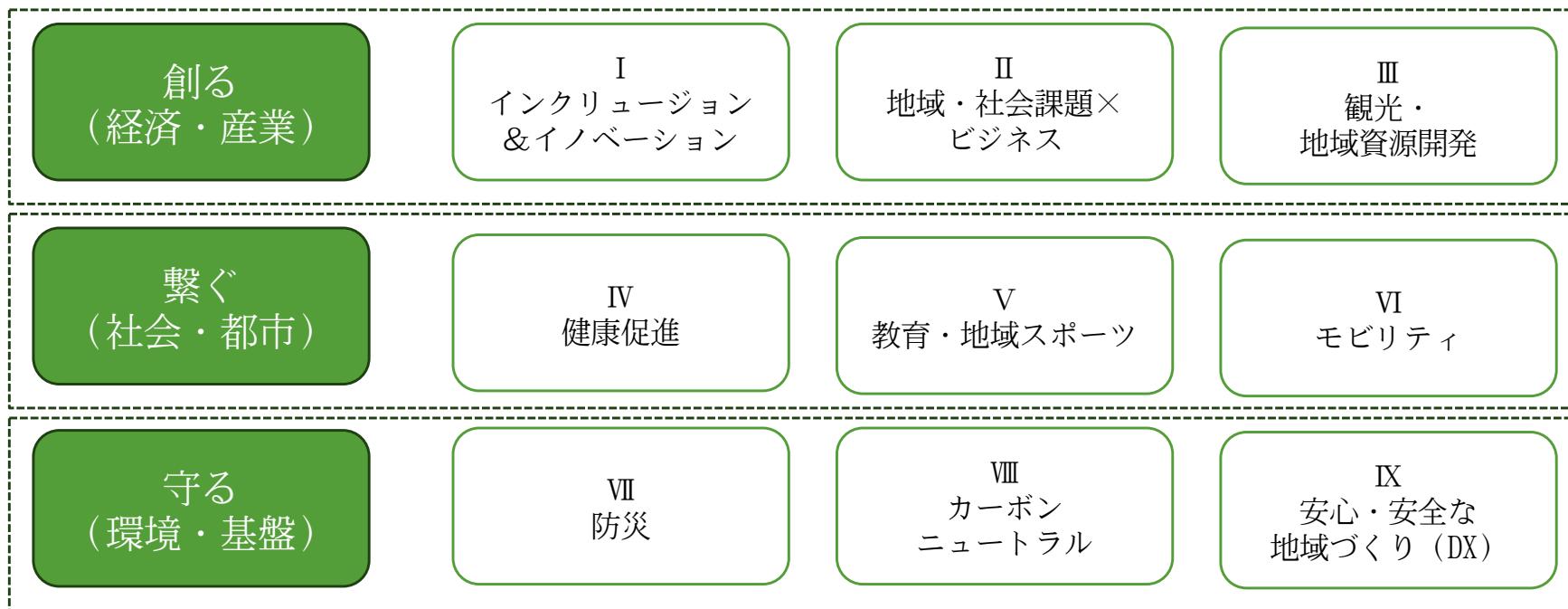


役員一覧		
会長	澤井 宏文	松原市長
会長代行	田中 幹夫	南砺市長
副会長	豊岡 武士 末松 則子 長内 繁樹 千代松 大耕 楠瀬 耕作 長野 恭紘 濱田 剛史 辻 宏康	三島市長 鈴鹿市長 豊中市長 泉佐野市長 須崎市長 別府市長 高槻市長 和泉市長
監査役	高橋 邦芳 玉木 久登	村上市長 有田市長

4. 具体的な取り組み

取組テーマ | 今後外部との連携を推進する際の活動テーマ・セミナー・ワーキンググループ

地域課題を以下のカテゴリに分け、参加型プロジェクトで官民連携で推進、進展を図る。



4. 具体的な取り組み

■ 主なアクションについて

政府連携・国際交流

・官民連携の機会創出

国省庁が実施する事業やイベントへの会員自治体の参加機会の提供と支援。
(花博(国内外PR発信)、経産省(地域経済発展)、文化庁(魅力発信・資源磨き)、観光庁(観光商品磨き上げ)など)
社会課題解決に資するリソースを持ち、連携を望む企業と会員自治体をマッチング。
企業や団体が実施する多様なプロジェクトへの参画機会の提供を目指します。

首長の最先端シェア

・会員自治体の首長リレーによる各地域の地方自治の事例共有やネットワークの構築支援～「首長TOP LIVE」～
会員自治体の首長自ら先進事例を紹介し、自治体同士の連携強化。
先進的な取組を首長ご本人から聞くことができる貴重な機会。
当事者が登壇し、具体的な取り組み事例を説明。自治の今後の取組みの参考になります。

官民連携・地域共創

・地域課題解決に取り組み民間の先進事例を紹介し会員自治体とのマッチングを支援～「地域共創セミナー」～
地域の未来社会を創造するために、①創る ②繋ぐ ③守る という3軸、約9テーマの切り口に分けて、
有識者や専門家、業界の先端企業と連携し、『地域共創セミナー・ワークショップ』を実施。

その他

・その他、地方創生に関わる事業・プロジェクト等

4. 具体的な取り組み

取組詳細 | 政府連携・国際交流 ~国省庁が実施する事業やイベント~

国省庁が実施する事業やイベントへの会員自治体の参加機会の提供と支援。

(花博(国内外PR発信)、経産省(地域経済発展)、文化庁(魅力発信・資源磨き)、観光庁(観光商品磨き上げ)など)

(以下は参考案件)

■ 経済産業省

例) 伝産品・工芸品の発掘、磨き上げ事業との連携

日本の工芸品など海外にむけたブランディング。

「SUSHI」「KAWAII」などは海外へ浸透。一方で伝産や繊維産地などは世界にささるストーリーがない状態。

工芸や祭りなど、日本の地域にある宝について「価値の言語化」を行い、ブランディングを行うための研究会と実証事業等。

例) 地域の遊休施設の活用等

日本の国際的規模の展示会を実施する施設が需要過多で供給が不足。

それを補う手段として地域の遊休施設を活用し地域の特色を掛け合わせた展示会やイベントの実施など事業者と自治体のマッチング等

■ 文化庁・経済産業省

例) 日本の地域に眠るまだ知られていない伝統工芸品や地域産品を巡るツアー等の実施

スイス「アートバーゼル」に認定されている「アートコラボレーション京都」は毎年11月に開催されている。

来場する富裕層向けに日本の地域に眠る伝統 工芸品や地域産品を巡るツアー的なものを実施するなど今後検討予定。

4. 具体的な取り組み

取組詳細 | 政府連携・国際交流 ~国際的イベントとの連携~

(以下は参考案件)

■その他海外イベント

例)2027年ベオグラー国際博覧会(認定博覧会)(関係省庁:経済産業省、文部科学省)

開催地:セルビア共和国ベオグラー市

会期:2027年5月15日から2027年8月15日

テーマ:「人類のためのあそび~すべての人のためのスポーツと音楽~」(Play for humanity: Sport and Music for All)

・バルカン半島西部で初の万博。

・インタラクティブな展示や研究、テーマプログラムを通じて、人々と国々をつなぎ、革新と遊びを共に祝うユニークな体験を提供。

例)2030年リヤド国際博覧会(登録博覧会)

開催地:サウジアラビア王国リヤド

会期:2030年10月1日から2031年3月31日

テーマ:「変化の時代:共に先見性のある明日へ」

・「大阪・関西万博」の後に相当する5年に一度のイベント。2030年までに完成予定の未来都市プロジェクトに焦点を当てた広範なキャンペーンを展開。

リヤドは世界で最も住みやすい都市トップ10に入ることを目指し、最大規模の近代的なダウンタウン「ニュー・ムラバ(New Murabba)」建設計画を発表。

4. 具体的な取り組み

取組詳細 | 政府連携・国際交流 ~IR・花博など国際的イベント等との連結~

オリパラ、万博に続き国際的なイベント等へ「基礎自治体の連合体」として連携し、会員自治体の共創や地域魅力発信の場の創出、支援。(万博レガシーとして形になったLOCAL JAPAN展のコンテンツを活用など)

(例)IR(大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備)事業の特徴(抜粋)

■ 魅力増進施設

- ・大阪・関西・日本が育んできた伝統、文化及び芸術等の観光魅力について、効果的な手法を活用して幅広く世界に向けて発信する。
- ・コンテンツの磨き上げや発信手法の工夫等により、既存コンテンツの発展や新たなコンテンツの創造に取り組む。

■ ショーケース機能

- ・国内外から訪れる多様な来訪者に多様なショーケースを通じて日本の観光魅力を効果的に発信
- ・新たな魅力発見の機会を提供するため、ニーズに適したコンテンツ選定等を工夫する。
- ・自治体・DMOがIR来訪者に直接プロモーションを行うことのできる場を提供する。
- ・ショーケースのデバイスについては、最先端技術の活用によって観光地をリアルに感じられる体験を提供する。等

【図表4：魅力増進施設の種類・機能】

NO.	施設名称	種類	機能	主な設備
1	ガーデンシアター	劇場	参加体験機能、イベント・プロモーション機能	舞台・音響・照明等の演出用設備
2	三道体験スタジオ	その他の施設（伝統文化等の展示場）	参加体験機能、イベント・プロモーション機能	音響・照明・映像等の演出用設備
3	ジャパン・フードバビリオン	レストラン（飲食施設）	飲食機能、参加体験機能、イベント・プロモーション機能	厨房設備
4	関西ジャパンハウス	その他の施設（工芸体験・物販施設）	リテール・カフェ機能、ワークショップ機能、情報発信機能	工芸品制作用の工作機器
5	関西アート&カルチャーミュージアム	美術館	ギャラリー機能、物販機能	吊り物等の展示用設備

2. 魅力増進施設の規模

NO.	施設名称	延床面積（計画値）	延床面積（暫定計画値）
1	ガーデンシアター	約910～1,400m ²	1,018m ²
2	三道体験スタジオ	約460～680m ²	520m ²
3	ジャパン・フードバビリオン	約7,300～9,100m ²	8,220m ²
4	関西ジャパンハウス	約450～660m ²	505m ²
5	関西アート&カルチャーミュージアム	約790～1,200m ²	887m ²

4. 具体的な取り組み

取組詳細 | 首長の最先端シェア ~ (参考)今後の活動「首長TOP LIVE」

首長自ら全国に向けて先進事例を紹介



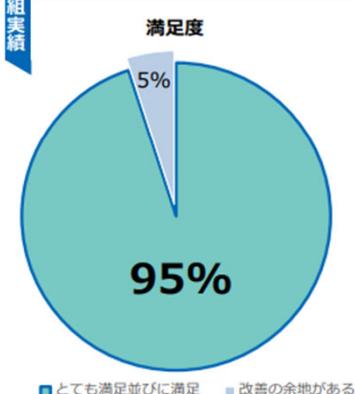
過去登壇首長

- 第1回 鈴木寿明
第2回 読谷山洋司
第3回 平野嘉也
第4回 澤井宏文
第5回 南出賢一
第6回 桂川孝裕

蒲郡市長
延岡市長
高野町長
松原市長
泉大津市長
亀岡市長

地域課題に取り組む首長の「最先端のノウハウ」を共有し、地方創生への糸口へと繋げていく

取組実績



アンケートのコメント

- 先進的な取組を首長ご本人から聞くことができる貴重な機会。
- 当事者が登壇し、**具体的な取り組み事例**を説明されるので、自分たちの取組みの参考になります。
- とても感銘を受けました。本市も頑張らねば。
- 地方の現状及び対策などが良く理解できた。また、各首長さんの意見も聞けた。
- 首長の生の声、声のトーン等で施策に取り組まれる姿勢を強く感じることができた。
- 首長との直接的な意見交換の時間がもっと欲しい、との声を受け、質疑応答を拡大するなど、運営方法を改善検討中です。

プロジェクト名	首長TOP LIVE
目的・趣旨	首長自らの先進的な取組・ナレッジの紹介による自治体・企業等の連携強化！会員自治体の先進的な取組の紹介を首長(市区町村長)自らに語っていただくスペシャルトークセッション。 自治体(首長～担当課の皆様)から民間企業の皆様まで、無料にて参加。
参考URL	https://mayoralalliance.jp/contents/kubicho-toplive/

4. 具体的な取り組み

取組詳細 | 官民連携・地域共創～(参考)未来創造セミナー・地域共創セミナー



地方創生に不可欠な有識者や専門家、業界の先端企業と連携

プロジェクト名	未来創造セミナー・地域共創セミナー
目的・趣旨	万博首長連合では、地域の未来社会を創造するために、 ①創る ②繋ぐ ③守る という3軸、約10テーマの切り口(調整中)に分けて、有識者や専門家、業界の先端企業と連携し、『未来創造セミナー・ワークショップ』を実施
参考URL	https://mayoralalliance.jp/contents/futureseminar/

4. 具体的な取り組み

会員区別・会費

